



第19回

出土文化財展



日時：令和5年6月7日(水)～6月18日(日)
場所：掛川市立中央図書館 1階生涯学習ホール

本発掘調査事業
よしおかばら いせき
— 吉岡原遺跡 (第16次) —

- 1 位置 掛川市吉岡
- 2 調査期間 令和4年6月～10月
- 3 調査面積 600㎡
- 4 内容

吉岡原遺跡は、弥生時代後期（1,800年前）から古墳時代前期（1,700年前）の遺跡として知られています。遺跡地内で茶園の改植が計画されたため、記録保存のための発掘調査を実施しました。

調査では、弥生時代後期の竪穴住居跡が2軒、小穴などが確認されました。住居跡は長径5.0m程度の大きさで、中央部には煮炊きをした炉、炉の周囲には固くたたきしめられた床が張られていました。また、住居内から盛り付けの際に使用された高坏などの土器が出土しています。

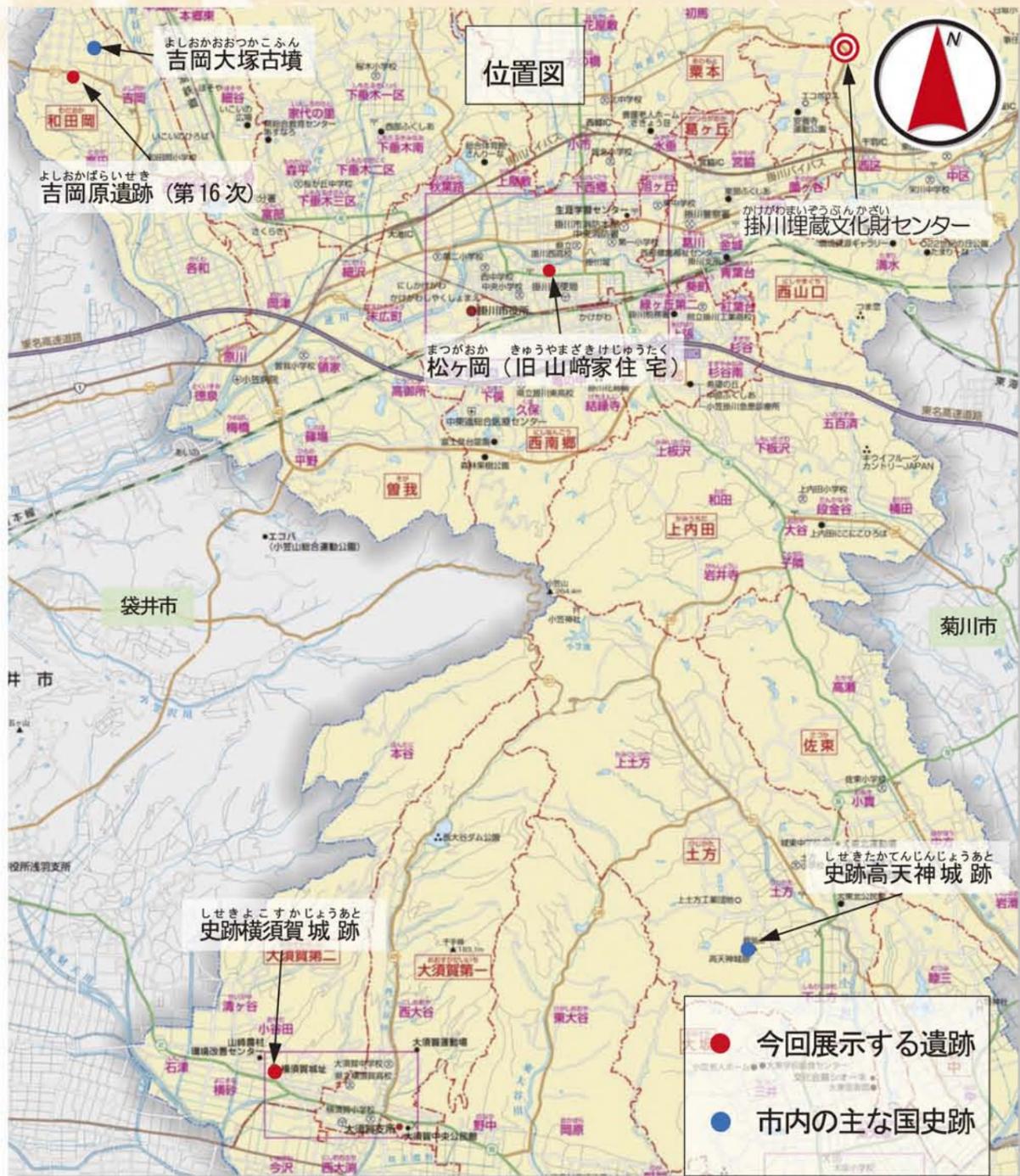
今回の調査では、見つかった遺構・遺物の数ともにまばらであり、調査区の南側では竪穴住居跡が確認されていません。集落の中心部ではなく、集落の端に相当する場所と考えられます。



竪穴住居跡



竪穴住居跡内から見つかった高坏の一部



- 今回展示する遺跡
- 市内の主な国史跡

めいわ 明和9年(1772)5月21日(陰暦)、現在の長谷小出ヶ谷地区において
どうたく いっく 銅鐸一口が発見され、掛川藩に届け出されました。掛川市では、この
とど 日を記念して、市民の埋蔵文化財に対する理解と保護・保存しようとする意識の向上を願い、出土文化財展を開催しています。


文化財愛護シンボルマーク

史跡災害復旧工事

— 史跡横須賀城跡 —

- 1 位置 掛川市山崎
- 2 工事期間 令和4年12月～令和5年2月
- 3 内容

横須賀城は武田氏から高天神城を奪還する拠点として、天正8年(1580)、徳川家康の命を受けた大須賀康高によって築かれた城です。天正9年(1581)に高天神城が落城した後は、明治維新に至るまで遠江南東部を支配する拠点としての機能を果たしました。

横須賀城跡は、昭和56年に国の史跡に指定され、これまで本丸、櫓門、三日月池、西の丸、北の丸、松尾山の史跡整備を実施しています。令和3年度には三の丸の整備に必要な資料を集めるため、確認調査を実施しました。

このように順次整備を進めている横須賀城跡ですが、令和4年7月と9月の大雨により、本丸と西の丸の斜面が崩落する災害が発生しました。災害発生箇所の現状を復旧するために実施した工事では、崩落した土を重機で取り除いて斜面を成形した後、植物の種子が入った浸食防止マットを設置しました。

斜面の崩落土から戦国時代末期に葺かれた瓦や江戸時代の陶磁器や瓦が見つかっています。本丸、西の丸に存在した建物に葺かれた瓦や城内で使われた陶磁器が斜面に落ちたものと考えられます。



本丸の斜面崩落状況



復旧工事の様子



西の丸復旧工事の完了状況



崩落土から出土した遺物

建造物の修復工事

— 掛川市指定有形文化財(建造物) 松ヶ岡(旧山崎家住宅) —

- 1 位置 掛川市南西郷
- 2 工事期間 令和2年8月～令和7年2月(予定)
主屋工事 令和2年8月～令和5年6月
長屋門等工事 令和5年5月～令和7年2月



松ヶ岡ホームページ

3 内容

松ヶ岡は、安政3年(1856)に豪商山崎家の住宅として建てられ、主屋や長屋門などが当時のまま残されている貴重な文化財です。

明治11年(1878)11月には、明治天皇の行在所(宿泊所)として使用されており、松ヶ岡がこの地域でもっとも格式の高い住宅であったことがうかがえます。

この松ヶ岡について、後世に永く伝えるとともに、市民活動の場として活用していくため、令和2年度から大規模な修復工事が進められています。

これまでの主屋の工事では、屋根瓦の葺き替えや傷んだ木部の修理、建物の傾きの修正などが行われました。

文化財建造物の修復ですので、瓦や垂木、床板など引き続き使用できる部分は再利用して修復を進めています。また、解体調査を進めている中で、式台玄関から棟札が見つかるなど、建物の変遷を物語る貴重な発見もありました。



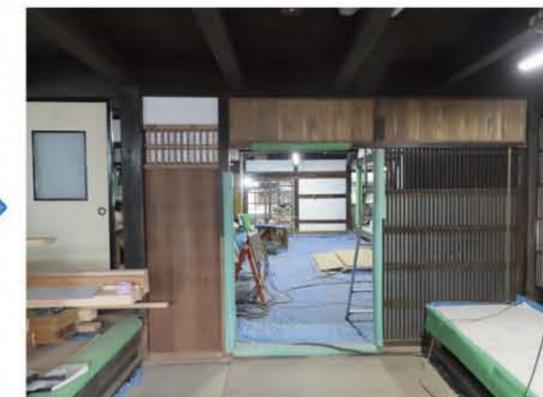
令和2年 解体調査前の屋根



令和4年 葺き替えが完了した屋根



工事前の主屋内部



復元整備が進む主屋内部